

ゼスプリ 北半球からの供給増加へ向けて生産者に協力要請

[FreshPlaza 2024年6月11日](#)

イタリア、フランス、ギリシャ、日本、韓国の生産者との協力

ゼスプリは、果実の周年供給に対する需要の高まりに応えるため、北半球でのキウイフルーツ生産の拡大について生産者の意見を聞いている。同社は、ニュージーランドのキウイフルーツの出荷シーズンを補完するため、イタリア、フランス、ギリシャ、日本、韓国の生産者と協力している。ゼスプリ・グローバル・サプライ (ZGS)として知られるこの取組みは、生産能力の限界に直面しており、ゼスプリは増加する消費者の需要を満たせないと主張している。現在、これらの地域では合わせて年間2千万箱のグリーンキウイフルーツの供給が認められており、サンゴールド品種の栽培制限は5千ヘクタール、あらゆる新品種の栽培制限は各1千ヘクタールである。

ゼスプリは2022年にこれらの上限の引き上げを提案したが、(ニュージーランド国内の)生産者らは供給過剰の可能性や果実の品質維持に懸念を表明し、承認は得られなかった。ゼスプリは、供給を増やさなければ、競合する供給者がより多くの市場シェアを獲得する可能性が高いとしている。

予測によると、既存の制限では、ゼスプリは2033年までに予想される需要の42%しか満たさないことが示されている。ゼスプリは現在、ZGSの将来と、この問題に関する正式な投票を進めるために必要なあり得る調整について、生産者からのフィードバックを求めている。この協議では、面積拡大の程度、承認期間、及びZGSに対する生産者の信頼を確保するために必要な報告メカニズムを探る。提案に関する議論は、生産者のイベントや7月に予定されている調査など、様々なプラットフォームを通じて行われる。

出典: mz.co.nz

ニュージーランド リンゴとナシの輸出が予想を下回る

[PRODUCE PLUS 2024年6月12日](#)

業界団体は小玉化のため収穫後の推計輸出量を改定したが、高い品質が需要を牽引していると指摘

ニュージーランド・リンゴ・ナシ協会 (NZAPI) は、2024年シーズンの収穫後の推計出荷量を発表し、輸出用のTCE (換算箱数) が11%減少すると予測している。輸出TCEは、産地による果実のサイズのバラツキにより、2024年1月に計算された2,120万箱から収穫後の推計では1,890万箱に減少すると見られる。

しかし、NZAPIによると、果実の風味と貯蔵性は、例外的な夏の好条件のおかげでここ数年で業界が目にした最高の部類である。同団体のプレスリリースは、暑い日が長く、乾燥したコンディションで、夜は涼しいため、ほとんどの品種で食味と着色の良いリンゴが生産されたとしている。

NZAPIのカレン・モリッシュCEOは、ニュージーランド産のリンゴは既に輸出市場で人気があることが証明されているとして、「果実は全体的に予想よりも小さいが、ここ数年で最高の収穫の1つであった。消費者がリピート買いするような高品質の果実があり、主要な輸出市場の需要は旺盛である」と述べた。

果実のサイズが小さくなったのは、昨年のサイクロン「ガブリエル」の影響が長引いたことと、春の気象条件が原因と考えられると、モリッシュ氏は付け加えた。

同氏は、「各産地で小玉化しており、多くの梱包施設で予想よりも早く荷造りが終わっているため、果実の供給がすぐに不足する可能性がある。しかし、今年の収穫物の風味は素晴らしく、昨年サイクロンで影響を受けた果樹が当初の予想よりもうまく収穫できたことで改めて安心している。輸出用の段ボール箱に納められたリンゴは、ニュージーランドで最高のリンゴであるだけでなく、世界でも最高のリンゴであり、今年の収穫はその事実を証明している」と述べた。

執筆者: ブリー・カジャティ